

和と輪

第102号

2025年3月15日発行

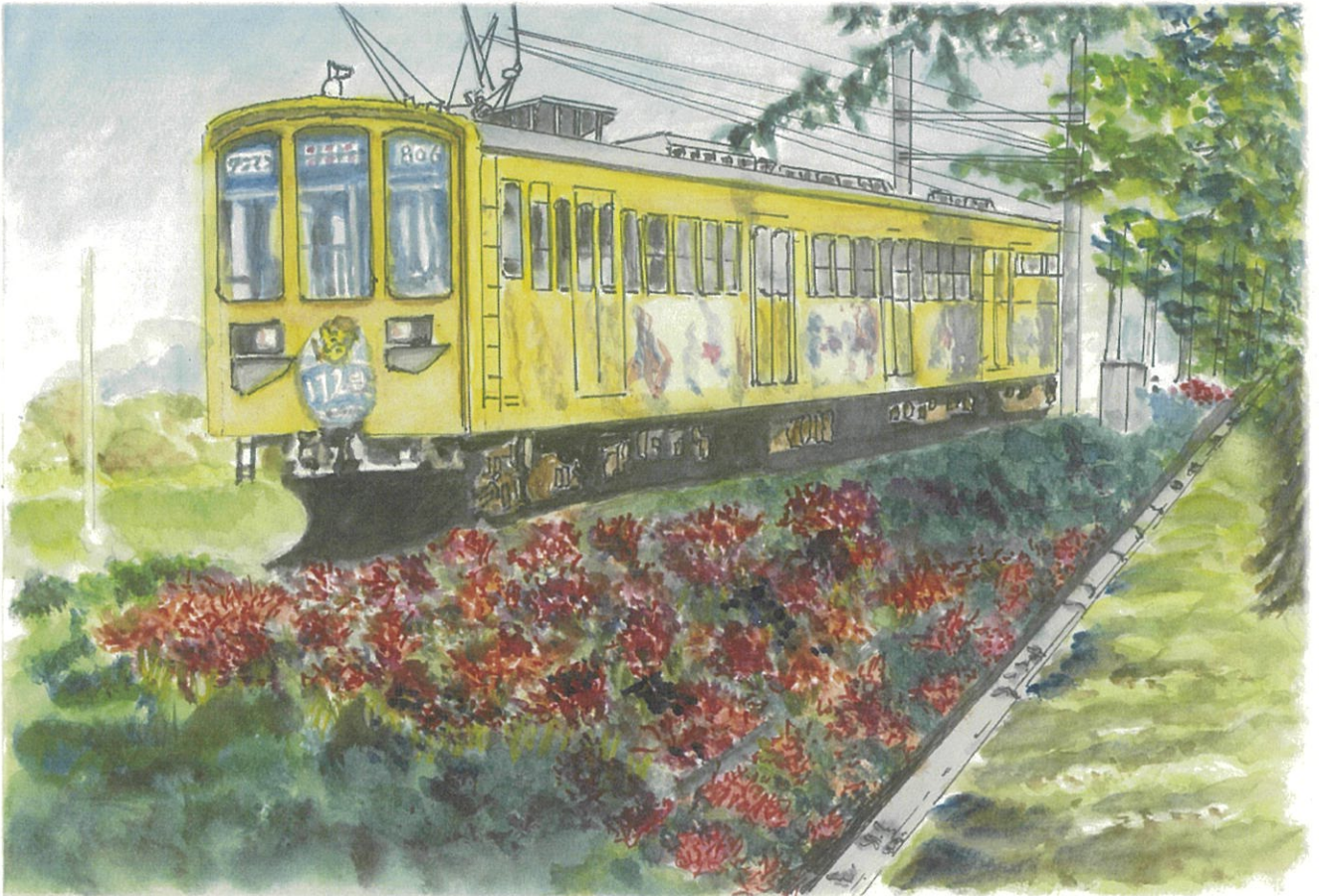
編集発行

蒲生地区人権のまちづくり協議会

事務局：蒲生コミュニティセンター

電話 0748-55-0207

IP電話 050-5801-0207



「曼殊沙華と電車」 絵・片山硅三郎(99歳) (さくら川スケッチクラブ会員)

やわらぎ

少子高齢化が進行し、地域の中で多世代による支え合いが不可欠になってきています。

本園では、核家族が9割を超え、日常的に高齢者と触れ合う機会が少なくなってきたいます。そのような中、毎年、高齢者団体「長福会」に参加させていただき、地域の方との交流を楽しんでいます。

紙風船や紙飛行機を作り、子ども達に優しく丁寧に遊び方のコツを教えてくださいます。紙風船の穴に息を吹きかけて膨らますことや、紙飛行機を真すぐ飛ばすことなど子ども達にとっては、なかなか思うようにはいかない難しさがあります。

他にもボーリングや輪投げコーナーもあり、励ましや称賛の声を掛け根気よく寄り添ってくださるので、上手くできなくてもくじけずに繰り返し挑戦して楽しんで遊ぶことができます。楽しい遊びの場があることで話すきっかけになり、すつと馴染んで打ち解けています。

あたたかく接してもらったことで「誰かの役に立ちたい」という気持ちが芽生え、地域に親しみをもって共に支え合って過ごせるようになることを願っています。

長峰幼稚園長 大野 美穂



学校での人権学

「レジリエンス」を テーマとした取組

蒲生北小学校

蒲生北小学校では、「レジリエンス」自分の気持ちを知らず、向き合う・立ち直る」をテーマに、人権学習の取組を行っています。レジリエンスとは、「困難な状況にうまく適応する力」のことを指します。昨年度は、自分の気持ちを知り、相手を大切にするために「うれしい」気持ちに注目して学習を行いました。プラスの言葉を共有し合い、相手にも同じ声掛けをしたいという児童の姿が見られました。今年度は、「かなしい」などのマイナスな気持ちと向き合い、立ち直る方法を見つける学習を行いました。人権週間では、学習参観に合わせて全学年が「自分の気持ちがモヤモヤしたとき、どうすればいいだろう」を学習課題に授業を行いました。「悲しい」「辛い」気持ちになったときに取る行動を出し合い、自分にできそうなものを考えました。「面白い本を読む」「好きなご飯を食べる」など、様々な意見がでました。また、心が落ち着くストレッチ



を行うことで、マイナスな気持ちから心を落ち着かせる方法を学ぶことができました。「レジリエンス」について、児童だけでなく保護者にも知ってもらうために、学習参観後に臨床心理士の先生をお招きして講演会を行いました。多くの保護者に参加していただきました。今後も、学校や家庭が共通して児童の心を育んでいけるよう、取組を続けていく予定です。

多文化共生の 在り方について学習

朝桜中学校

今年度の全校テーマは「国際理解」とし、多面的・多角的に生徒に考えさせる人権学習の計画を立てました。人はそれぞれ違う文化をもち、当たり前と感じることが異なることを知り、多文化共生の在り方について学習しました。学習した内容は人権集会の講演内容とつながり、さらに考えを深めるようにしました。

人権週間では、朝の放送で、夏休みに実施した人権作文の各学年の優秀作文の発表をし、二日が始まります。人権集会はコロナ禍以降、全校集会から各学年開催へと形をかえながら実施しています。

人権集会第一部では、クラスで考えた学級の人権宣言、学年の人権宣言を共有確認しました。また、毎年実施している、ぬくもりメッセージについては各クラス1名の代表を選び、発表した後そのメッセージを廊下に掲示しました。さらに、人権委員が中心となって内容を考えた人権劇を今年も行いました。普段の学校生活にありそ

うな内容で劇を演じ、各学年のグループで話し合い人権問題について考えました。

また、人権集会第二部では、国際理解について三重県国際交流財団の上原ジャンカルロさんを講師にお招きし、お話をさせていただきました。私たちにできることは、「自分と違う価値観をもつ人の現状を知る」「自分の価値観を押し付けない」「一般化しない」「無関心をなくす」「話しかける時は、やさしい日本語」など大切なことを一緒に学びました。

今年度は「国際理解」を主なテーマに学習し、そこから私たちの身の回りの様々な人権問題について広く考えることができました。



習の取組紹介



あかね人権集会の開催

蒲生東小学校

12月2日の朝、「人はだれもが幸せに生きていくための権利を持っていきます。この権利を「人権」といいます。その人権を守るために私たちがどうしていいかとよいかにについて、子ども達も先生も一緒に考えていくのが人権週間です。(略)お友達一人ひとりのよさを見つけながら、だれもが幸せに生きていくためにはどうしていいかとよいかということについて、一緒に考えていきましょう」というお話を全校放送でしました。人権週間には、読み聞かせ、ぬくもりメッセージの交流、「がんばりの実」(友達が頑張っていること)・「はくわたしのいいところ」の掲示等、学年に応じた人権学習に取り組みました。

12月6日にはあかね人権集会を行いました。今年度はPTA親子芸術鑑賞会とのコラボとして手話シンガーソングライターのyokoさんを招き、手話歌の講演ライブを鑑賞しました。yokoさんのお話を聞いたり、一緒に手話をしたり楽しいひと時を過ごすことができました。yokoさんは国スポ・障スポのイメージソングを歌っておられるので、ライブの最後にキャッファイも登場して大変盛り上がり、みんなで記念写真を撮りました。



キラキラの木

学級の人権宣言

蒲生西小学校

蒲生西小学校では、12月2日～6日の人権週間に向け、人権委員会が中心となって「キラキラの木」や「学級の人権宣言」という取組を進めました。

「キラキラの木」では、友達に言ってもらった優しい言葉かけや、してもらった思いやりのある行動など、友達の素敵な姿を花の形のカードに記入し、学級ごとに紙で作った木に貼り付けていきました。人権週間では、各学級で完成したキラキラの木を集め、キラキラの森として渡り廊下に掲示しました。友達の素敵な姿を進んで見つけることで、友達一人ひとりの良さに気付く良い機会となりました。

「学級の人権宣言」では、一人ひとりの人権は守られているかについて、学級でじっくり考える時間を設け、学級の課題をみんなで解決していくために、学級ごとに人権宣言を立て、昇降口に掲示しました。人権週間中、毎日、各学級で人権宣言の振り返りを行

い、翌日に人権委員会が、昨日に人権宣言を達成できていた学級を放送で発表しました。毎日振り返りを行うことで、学校一丸となつて、より人権宣言を意識して生活することができました。翌週には、各学級の代表者が人権週間の振り返りを放送で発表しました。人権宣言を通して、自分の学級を見つめ直す良い機会となりました。



視点

一人ひとりの人権が尊重される職場づくり

滋賀蒲生町農業協同組合

現代社会において、職場での人権尊重は重要な課題です。特にハラスメント問題は、個人の尊厳や働く意欲に深刻な影響を与えるため、その予防と対応は不可欠です。当組合も農業を支える組織としても、人権尊重の姿勢が求められます。

また、多様性と包括性の推進にも力を入れています。異なる背景を持つ人々が共に働くことで、新たなアイデアが生まれ、組織の発展に貢献します。多様な価値観を尊重し、すべての職員が自分らしく働ける環境を整えることが重要です。

安全で尊重される職場環境を維持するためには、ハラスメント防止と多様性の推進が不可欠です。農業や地域社会と深く関わる組織として、信頼関係を築きながら持続可能な発展を目指します。

ハラスメントを防ぐために、明確なポリシーを策定し、全役職員に周知しています。具体的なシチュエーションを想定した研修を実施し、適切な対応方法を学ぶことで、意識向上を図ります。被害者が安心して相談できる環境を整えることも重要と考え、匿名で相談できる窓口を設置し、被害の早期発見と適切な対応を促進しています。さらに、被害者が必要なサポートを受けられる体制を整え、問題解決と再発防止に努めています。

近年、農業分野では季節労働者や多国籍の労働者が増加しています。多様性を尊重し、コミュニケーションの活性化や、多様な視点を共有することで、組織全体の生産性と創造性が向上します。

これらの取組を通じて、人

権が尊重される職場を実現し、安心して働ける環境を提供することで、組織全体の発展と地域社会への貢献を目指します。これからも当組合は、信頼と共生の理念のもと、持続可能な未来に向けて努力を続けます。



人権学習の取組

【滋賀蒲生町農業協同組合】

編集後記

今回の広報誌を通じて、各校での人権学習の取組が子ども達の心を育む大切な機会となっていることを改めて実感しました。学校ごとに工夫を凝らした活動が展開され、児童生徒一人ひとりが思いやりや尊重の大切さを学んでいます。また、職場における人権尊重と多様性推進は重要であり、安心して働ける環境を提供し、ハラスメント防止への意識向上につながる活動だと思います。

多様なアプローチで人権について深く考える機会を設けて、これらの取組を通じて、相手の気持ちを理解し、支え合う力を身につけていくことを願います。今後も学校・家庭・企業地域が連携し、人権意識を育む環境を整えていくことが大切であり、この広報誌が、その一助となれば幸いです。

(編集委員 M)